

名古屋外国語大学論集 第1号 2017年7月

## 論文

### 戦争と子ども

—中国の語文教科書から—

戦争与儿童—以中国人民教育社《语文》为资料

西川真子

Mako NISHIKAWA

はじめに

I 義務教育語文課程の教材としての「王二小」

II 「戦争と子ども」という主題

おわりに

### はじめに

義務教育課程における国語科目は、社会参加に必要な言葉と文の習得を第一義とするが、国民が共有する知識と価値観の獲得に対し大きな影響を与える。中国においては、語文科目がこの役割を担い、同科目によって現代中国語の基本となる言葉と文を学ぶとともに、中国社会が求める価値観を形成し思考方法を身につける。

中国の義務教育課程における言語の習得と、社会が期待する価値観並びに思考方法の確立は密接に結びついていると言う点に着目し、筆者は中国の義務教育課程育語文科目の教科書について様々な角度から考察を試みてきた。<sup>1</sup> その過程で浮かび上がったのが、中国の義務教育語文課程の教科書は、価値観と思考方法の確立のための指針を、個別の教材の中にどのように反映しているのかという課題である。これに関して、中国の義務教育語文課程の実施

規定である「義務教育語文課程標準（2011年版）」第一部分 前言には以下のように掲げられている。

語文課程は学生の言語と文字の運用能力を培い、学生の総合的素養を高め、その他の科目を理解するための基盤の構築に力を尽くす。すなわち、学生が正しい世界観、人生観、価値観を形成し、良好な個性と健全な人格を磨くために基礎を固める。また、学生の総合的かつ生涯にわたる成長のための基礎を作る。語文課程は中華民族の優秀な文化と革命の伝統を継承し発展させ民族文化への共感を強め、民族の凝集力と想像力を高めるために、他に代えられない重みがある。

语文课程致力于培养学生的语言文字运用能力，提升学生的综合素养，为学好其他课程打下基础；为学生形成正确的世界观、人生观、价值观，形成良好个性和健全人格打下基础；为学生的全面发展和终身发展打下基础。语文课程对继承和弘扬中华民族优秀传统文化和革命传统，增强民族文化认同感，增强民族文化认同感，增强民族凝聚力和创造力，具有不可替代的优势。<sup>2</sup>

ここに言われる「正しい世界観、人生観、価値観の形成」とは、自分を取り巻く社会状況を判断し、行動するための指標の確立を意味する。この目標を達成するために語文科目の教科書である『語文』には多様な教材が載録されている。特に国家が国民に期待する「世界観、人生観、価値観の形成」という観点に着目すれば、中国の語文教科書には近現代史上中国が危機的状况に陥る契機となったアヘン戦争から現代に至る期間を中心に、免れ得ない戦争に直面した人間は如何に行動するのかという問いが繰り返し投げかけられている。戦争は人間を逃げ場のない状況に追い詰め、人間の生死を支配するからである。この種の教材として、人民教育出版社刊義務教育課程標準実験教科書『語文』全十八冊の中で、最初に登場するのは、『語文』一年級下冊第六单元第23課「王二小」（王二小）である。同課は抗日戦争の最中、八路军

に協力し日本軍によって殺害された十三歳の少年王二小を主人公とする。これに次いで『語文』四年級下冊第四単元は更に明確に「戦争と子ども」を主題とする教材が集められている。

本稿では、これらの教材を分析し、『語文』の中で戦争と子どもという主題が如何に説明されているのか、これらの教材を学ぶことによって、如何なる世界観、人生観、価値観を育むことになるのかを考えたい。考察に当たっては、現在中国全国の六割以上の学校で使用されている課程教育研究所・小学语文課程教材研究開発中心編著、人民教育出版社刊義務教育課程標準実験教科書『語文』、並びに同『語文 教師教学用書』を資料とする。<sup>3</sup>

## I 義務教育語文課程の教材としての「王二小」

『語文』一年級下冊第六単元第23課「王二小」は、抗日戦争の中で八路軍を助けて戦死する十三歳の少年王二小を主人公とする。同課が載録される『語文』一年級下冊は、全体が八つの単元に分かれ、各単元の主題は、第一単元「色とりどりの春」、第二単元「家庭生活」、第三単元「環境保護」、第四単元「楽しい夏」、第五単元「頭を使って考える」、第六単元「わたしたちの幸福な生活」、第七単元「みんな素晴らしい人間だ」、第八単元「身近な科学」となっている。この中で第23課「王二小」が含まれる第六単元の学習目標は、「生活の喜びと幸福を味わい、祖国に春が訪れるまでの苦難を知ること」<sup>4</sup>とされており、同単元内には「王二小」の前後に第22課「水を飲む時に井戸を掘った人を忘れない」（吃水不忘挖井人）、第24課「故郷を描く」（画家乡）、第25課「楽しい祝日」（快乐的节日）が収められている。教師用の指導参考書『教師教学用書』は、これら四つの教材には過去、現在、未来について考える目的が与えられていると述べる。<sup>5</sup> すなわち「水を飲む時に井戸を掘った人を忘れない」と「王二小」は過去を理解するための教材であり、祖国の独立は革命の先人、革命烈士が血を流し生命と引き換えに勝ち得たことを理解し、大きな犠牲を払った先人に感謝することに意味がある。

過去を認識するための教材とされる「水を飲む時に井戸を掘った人を忘れない」と「王二小」は、いずれも中国共産党が政権を樹立する以前の故事が

主題となっているが、第22課「水を飲む時に井戸を掘った人を忘れない」は、中華人民共和国の初代国家主席毛沢東の名前を認知するための教材である。約百字の本文は以下のとおりである。

瑞金城外に沙洲坝という村が有った。毛主席は江西で革命を指導していた時、そこに住んでいた。／村には井戸が無く、水を飲むには遠いところまで取りに行かなければならなかった。／毛主席は兵士と村人を率いて井戸を一つ掘った。／解放後、村人たちは井戸の傍らに石碑を立て、石碑の上に次のように刻んだ。「水を飲む時に井戸を掘った人を忘れず、どんな時も毛主席を慕う」<sup>6</sup>

同課の学習目標は、「激しい戦闘や立ち遅れた貧しい生活と無縁な現在の児童に、人民を解放し人民に幸福をもたらした毛沢東主席の名前を周知させ、水を飲む時にはその源を思うという精神を培い、民族の自尊心、自信、プライドを高めると同時に今日の幸福な生活に感謝する気持ちを育むこと」にある。<sup>7</sup>

ここで題材となっている井戸は江西省瑞金市沙洲坝にある。一九三一年毛沢東が率いる中国共産党は同地瑞金に中華ソビエト共和国臨時政府を樹立した。そこで毛沢東は、村に井戸が無く住民は洗濯用の濁った池の水を飲用していると知った。毛沢東は村人を救うために自ら水脈を探り清らかな水が湧き出る井戸を掘った。一九三四年中国共産党は国民党軍に包囲され瑞金を放棄し、陝西省延安に至る一万二千五百キロを行軍する「長征」へと向かったが、同地の住民はこの井戸を守り、建国後は井戸の傍らに記念碑を立て、「水を飲む時に井戸を掘った人を忘れず、どんな時も毛主席を慕う」(吃水不忘挖井人, 时刻想念毛主席)の文字を刻んだ。

「水を飲む時に井戸を掘った人を忘れない」は、国民党の攻撃を受けながらも中国共産党を率い政權樹立を目指した一九三〇年代の毛沢東を象徴する逸話として知られ、人間の品德を表す言葉として今も現代中国語の中で引用される。同課の本文には「毛主席は江西で革命を指導していた」の一文が含ま

れるが、国民党との戦闘等具体的な記述はない。『語文』一年級の教材としては、当時の政治情勢を抜きにして、井戸の無い村の苦境を救った話として理解し、毛沢東の功績を知る内容となっている。

つづく第23課「王二小」は、八路軍に協力し敵軍と戦う少年王二小を主人公とする物語である。「王二小」は小学一年用の教材として、百五十字足らずの本文と、本文とほぼ同量のスペースに三枚のカラー刷りの挿絵で構成されている。本文全文は、以下のとおりである。

王二小は児童団員だ。彼はいつも牛を追いながら、八路軍の見張りを手伝っていた。／ある日、敵が掃討作戦のためにやって来たが、山の入り口で迷子になった。／敵は王二小が山の斜面で牛を追っているのを見つけると、道案内を命じた。／王二小は、素直に従う振りをして前を歩き、敵を八路軍の潜伏地に誘い込んだ。／突然、四方に銃声が鳴り響いた。敵は騙されたと気づき、小さな英雄王二小を殺害した。／その時まさに、八路軍が山頂から襲撃し、敵を全滅させた。<sup>8</sup>

本文中には記されないが、「王二小」の物語は、抗日戦争中の一九四二年に発表された歌唱曲『歌唱二小放牛郎』が原典となっている。当時、中国共産党が率いる八路軍は抗日戦争の激戦地となった晋察冀辺区<sup>9</sup>を舞台に日本軍の侵略に抵抗運動を続けていた。同地域内では幼い子どもも児童団に組織され、見張り等の役目を果たしていた。『歌唱二小放牛郎』は同地で八路軍に協力し日本軍との戦闘によって死亡した児童団員を追悼するために作られ、社会に広まった。建国後には延安時代から革命運動に携わった作家陳模が『歌唱二小放牛郎』に基づいて短編小説『少年英雄王二小』を発表、さらに映画の題材ともなって「王二小」の故事は中国全土に広まった。<sup>10</sup>

『語文』一年級下冊第23課「王二小」の本文に登場するのは主人公の王二小、敵兵、八路軍の三者である。この三者が関わる事件について、本文に詳細を示す表現は含まれないが、本文に「八路軍」の語が用いられ、本文に付された三枚の挿画の中の二枚には日の丸が描かれている。これによって、本

文に言う八路軍の「敵」は日本兵であると理解できる。主人公の王二小に関しては、本文は王二小は日頃から八路軍に協力する児童団員<sup>11</sup>だと述べるだけだが、『教師教学用書』には「愛称しか分からない子供で、犠牲になった時はまだ十三歳だった。これから花開こうという若い生命を犠牲にして、今日の子供たちに戦火とは無縁の幸福な生活をもたらしてくれた」と説明されている。<sup>12</sup>『教師教学用書』は、同課について「小さな英雄の行為を理解し、この英雄に対する崇敬の念を表すこと」「王二小の機智と勇氣に溢れた資質を見習い、今日の幸福な生活が得難いものであることを体得すること」とし、抗日戦争に貢献した少年に敬意と感謝を表することを学習目標に掲げる。<sup>13</sup>

このように「王二小」が義務教育語文課程の教材に取り上げられることから、「王二小」という表象が次世代へと受け継ぐ対象として認識されている事情が見て取れる。今日まで「王二小」が抗日戦争の時代を象徴する存在とされてきたのは、歌唱曲『歌唱二小放牛郎』に加えて、建国後に出版された陳模の小説『少年英雄王二小』、さらにこれらを題材とした映画作品の影響力和、『語文』の教材としての「王二小」の相互作用による。その中で『歌唱二小放牛郎』は「王二小」に関わる故事の原典として、抗日運動に従事していた記者方冰と音楽家劫夫が、晋察冀辺区一帯で八路軍に協力し見張りや伝令等危険な任務に携わった子どもたちを顕彰するために作詞作曲し、広く社会に受け止められてきた。

こうした経緯を反映し、『語文』一年級下冊第23課「王二小」の学習に際しては、同課の本文を学習した後、王二小への親近感を育むために「実践活動」として『歌唱二小放牛郎』の歌唱練習、テレビドラマ『小兵张嘎』<sup>14</sup>の鑑賞、本文に即して示されている三枚の挿絵につづき四番目の挿画を自ら描くという三種の課題が提示されている。<sup>15</sup>特に『歌唱二小放牛郎』の歌唱練習については、『教師教学用書』に歌詞全文と歌唱の要点が記されている。<sup>16</sup>今、義務教育語文課程の教科書である『語文』が革命の伝統を受け継ぐための教材として「王二小」を取り上げることは、王二小の少年像を抗日戦争期の子どもを象徴する存在と見做し、この教材を次世代に継承するものと位置付けられていることを表している。

抗日戦争終結から七十年以上たち、戦争当時の事情を知る機会が減少していく中で、小学生が抗日戦争を意識し記憶に留めるのは容易ではない。その中で「王二小」の学習は小学一年の児童が抗日戦争に触れる数少ない機会となっている。授業に際しては教科書の本文だけでなく、視聴覚作品を通じて王二小少年の人物像をより明確に記憶するべく設定されているが、これは抗日戦争を象徴する存在として「王二小」の比重が高まることを意味するものでもある。

このように、「王二小」は抗日戦争の中で八路軍に協力し日本兵によって殺害された王二小の勇気と機智を知り、王二小に関する記憶を継承するための重要な教材だと位置づけられる一方で、『教師教学用書』では主人公の王二小を愛称しか伝わらない少年と説明する。しかし、教科書以外の関連資料の中には、王二小の出身地や姓名等、王二小の原形となる人物について言及するものもある。

まず、王二小の故事の舞台は抗日戦争当時の晋察冀辺区の域内で、現在の河北省涞源县だと説明するのは、河北省涞源县並びに涞源县を管轄する河北省保定市である。涞源县は、抗日戦争期に八路軍が日本軍の軍事侵略に対して行った抗日戦争の激戦区として知られている。<sup>17</sup> 現在涞源县が運営する涞源县人民政府門戸網站「王二小原型在涞源：抗日英雄故事家喻户晓」<sup>18</sup> は、『歌唱二小放牛郎』が描く王二小の原型となったのは、一九二九年涞源县上庄村の貧しい農家の出身で、十一歳で孤児となり、その後抗日児童団に加わった少年だと記述する。ここで王二小は牛を追って山に入り、八路軍の為に歩哨に立ち、暇があれば草刈り、走り使い、伝達など抗日の為に奉仕したという。但し同資料は、この少年を王二小と称するのみで、本名については言及していない。

同省保定市人民政府網が掲載する「王二小原型在涞源」<sup>19</sup> は、『燕趙晩報』に掲載された「秋訪平山滾龙沟 怀念英雄王二小」<sup>20</sup> を引用し、一九九〇年代以降、「王二小」のモデルとなった実在の人物の有無及びその人物の故郷について市民の中に議論が生じたと述べている。しかし、「王二小原型在涞源」も上記「王二小原型在涞源：抗日英雄故事家喻户晓」と同様に、王二小は一



九二九年涿源県上庄村の貧しい農家に生まれ、十一歳で孤児になった後に抗日児童団に参加、八路軍に協力したと述べているものの、王二小の本名等については記載していない。

ただし「王二小原型在涿源：抗日英雄故事家喻户晓」並びに「王二小原型在涿源」はともに、「抗日戦争期に晋察冀辺区青救会児童部部長を務めた徐光將軍の著書『晋察冀抗日根拠地』には、晋察冀辺区で広く知られていた歌曲『歌唱二小放牛郎』に登場し、この歌が讃える小さな英雄のモデルとなったのは河北省涿源県の児童団員王二小であるという記載が有る」<sup>21</sup> として「王二小」は『歌唱二小放牛郎』に歌われる人物であると述べている。

「王二小」の人物像については、『歌唱二小放牛郎』の作詞者方冰に関する資料の中でも言及されている。新丁「方冰和《歌唱二小放牛郎》」、<sup>22</sup> 華東方「方冰与“王二小”」<sup>23</sup> によれば、抗日戦争時、方冰は華北方面で抗日運動に従事していたが、遊撃戦がおこなわれていた一帯の農村では 食料や衣服にも事欠く中、危険を冒して通信や道案内等の任務を受け持つ子どもたちは珍しくなく、中には幼い生命を犠牲にする事件に接したとされる。そこで方冰はこうした子どもたちを「抗日運動の小さな英雄」と呼び、彼らを讃えるために『歌唱二小放牛郎』を書いた。だが、この歌の主人公「王二小」は特定の人物を表すものではなく、歌詞の中の少年には中国で広く知られる姓として王姓を用いたと言う。<sup>24</sup> またこれらの資料によると方冰は「王二小」をあくまで創作上の人物と位置付け、「王二小は劉胡蘭、董存瑞、黄繼光とは異なり、自分が創作した芸術的人物像であり、無数の幼い英雄の化身であり、特定の個人を描いたものではない」<sup>25</sup> と述べたとされる。

一方、「王二小」のモデルとなった人物の特定を試みる言説の例として、前述の保定市人民政府網掲載の「王二小原型在涿源」に引用されている、二〇一三年十月十四日付『燕趙晩報』掲載の記事「秋访平山滚龙沟 怀念英雄王二小」<sup>26</sup> は、王二小のモデルとして「閻富華」を有力な候補とする。同じく中国共産党中央宣伝部が管轄する中国文明網に掲載されている「抗日英雄王二小」<sup>27</sup> も王二小のモデルとなった人物は閻富華だと述べる。「抗日英雄王二小」によれば閻富華は一九二九年平山県に生まれた。同県には一九三八年に



八路軍晋察冀軍区司令部、晋察冀日報社（人民日報社の前身）、辺区銀行戦闘部隊等が設けられたが、この頃閻少年は同村内に組織された抗日児童団の団長として活動し、牛追いのかたわら敵情の偵察等を受け持っていた。一九四一年九月十六日、閻二小が牛追いをしていたところ掃討作戦を展開中の日本兵に出くわし、八路軍の潜伏地を教えるよう迫られた。閻富華は日本兵に従う振りを装って日本兵を山中に引き込んだ。これを待ち受けていた八路軍は閻富華の機転に助けられて日本兵を殲滅したが、閻少年は敵兵に殺害された。閻富樺の死後、彼の英雄譚は直ちに近隣の村に伝わったとする。これに続けて「抗日英雄王二小」は、前述の作詞家方冰の証言を引用しているが、それによると方冰は当時、この地域に設けられた西北戦地服務団（略称：西戦団）に記者として駐在しており、「王二小」の事件から三日目に現地を訪れて取材し、同年初冬に作曲家劫夫とともに歌曲「歌唱二小放牛郎」を完成した。方冰と劫夫は完成した歌を西戦団少年芸術隊に歌唱指導し、近隣の村民や子どもたちに広め、翌一九四二年一月一日には『晋察冀日報』の副刊『老百姓』に掲載されて、華北一帯に広まったという。<sup>28</sup>

これらの記述から、「王二小」の人物像には不確定な部分が存在するが、『語文』所収の教材「王二小」は『歌唱二小放牛郎』に対する説明と同様に、「王二小」を特定の個人に帰属させることは避け、「王二小」を愛称しか伝わらない少年とする立場を取っている。これは「王二小」を中国全土で抗日戦争に貢献した無名の国民を象徴する存在へと昇華させる意味を持つ。

以上のように、第22課「水を飲む時に井戸を掘った人を忘れない」と第23課「王二小」はいずれも今日の中国の繁栄と平和の基礎を築いた先人へ感謝の念を育てるための教材であるが、この二つの教材において、抗日戦争は「名も無き民衆」の犠牲的貢献によるものと位置づけていることが分かる。

第23課「王二小」には、「本文に即して挿絵を描く」という課題が設定されているが、「絵を描く」を接点に次につづく教材、第24課「故郷を描く」（画家乡）<sup>29</sup> は、五つの異なる環境の中で育つ子どもの情景を散文詩で表現する。同課の本文は、中国の多様な地理環境を意識して、漁村、山村、田園地帯、草原、都市に住む子どもと彼らを取り巻く環境を、絵を描くように表現

する五つの小節から成り立っている。各節に配された五人の子どもは、それぞれの環境の中で幸福に包まれ未来に希望を抱いて育つ者として表現されている。同課の学習目標は、早い段階から児童に祖国への愛情を感じさせ、自分の故郷を愛する情熱を高めさせることにある。<sup>30</sup>

『語文』一年級下冊第六単元を締めくくる第25課「楽しい祝日」（快乐的节日）<sup>31</sup> は作家管樺（一九二二～二〇〇二）の作詞、李群の作曲による同名の歌唱曲「楽しい祝日」<sup>32</sup> の歌詞を本文とする。原作者の管樺は一九二二年河北省豊潤県の貧しい農家に生まれた。抗日戦争がはじまると父親は八路軍に加わり一九四四年に戦死した。管樺自身も一九四〇年から八路軍に加わり抗日戦争の前線に立った。管樺はこの時期に八路軍に協力する子どもと身近に接した経験から、その後も戦争の中の子どもに関心を持ち続けてきた。そのかわり管樺は一九四二年に華北連合大学卒業後、『救国報社』に配属され従軍記者を務めた。管樺はこの頃から創作活動を開始し、一九四八年には『人民日報』の前身である『晋察冀日報』副刊に処女作の短編小説『雨来は生きている』（雨来没有死）を発表した。建国後、管樺は天津音楽学院、中央楽団等に配属された後、北京作家協会所属の作家として創作活動に専念するようになった。こうした経歴は管樺の創作活動にも反映され、『お母さんが語る昔の話』（听妈妈讲过去的事情）、『みんなの田野』（我们的田野）等多くの児童唱歌の作詞を担当している。『楽しい祝日』もそうした作品の一つで、六月一日の世界児童節に際し、過去の子どもたちへの敬意と未来の子どもたちの幸福を祈念して書かれた作品である。本文は、子どもたちが今日の時間をかけがえのないものとし、より良い明日に思いを馳せるように展開する。すなわち作品の冒頭は、「小鳥は前を進んで道案内、風は私たちをくすぐる。私たちは春のように花園の中にやって来て、草地の上に舞い降りる。鮮やかな紅いネッカチーフに、きれいな衣装は、まるで花が咲いたよう」<sup>33</sup> という言葉で始まり、嘗て抗日戦争の根拠地で八路軍の見張りに立った子供の上に、未来に羽ばたく子供たちの姿を重ねる構成になっている。

以上のように、小学校課程における語文科目の教科書『語文』全十二冊の中で最初に戦争を主題とする教材は一年級下冊所収第23課「王二小」である

が、同課は今日の平和は先人の犠牲の上に実現したことを理解するための教材と位置付けられている。「王二小」に次いで戦争が主題となる教材は『語文』三年級下冊所収の選習教材第七課「手術台は陣地」（手术台就是阵地）である。同課は抗日戦争期にカナダから中国に派遣された医師ノーマン・ベチューン（一八九〇～一九三九）が、一九三九年四月晋察冀辺区の涞源县孫家庄村の小廟で敵の砲弾を受けながら、八路軍の負傷兵のために医療活動をおこなった故事を叙述する。同課は必須教材ではないが、晋察冀辺区涞源县を舞台とする教材で「王二小」との連携が図られている。戦争を主題に据える教材は「手術台は陣地」を経て『語文』四年級下冊第四単元「戦争と子ども」に引き継がれる。

## Ⅱ 「戦争と子ども」という主題

『語文』四年級下冊第四単元は「戦争と子ども」を主題とし、第13課「ナイチンゲールの歌声」（夜莺の歌声）、<sup>34</sup> 第14課「小さな英雄雨来」（小英雄雨来）、<sup>35</sup> 第15課「ある中国の子どもの願い」（一个中国孩子的呼声）、<sup>36</sup> 第16課「みんなに春が来るように」（和我们一样享受春天）<sup>37</sup> の四教材が収められている。これらの教材は、「戦争と子ども」という主題を如何に説明するのか。この単元の学習目的について『教師教学用書』は、第二次世界大戦中に勇氣と機智を発揮して危機を乗り越える子どもの物語と、現代の国際情勢の中で引き起こされた軍事衝突について子どもの視点から説く教材を取り上げたと述べる。<sup>38</sup>

まず第13課「ナイチンゲールの歌声」は一九四一年六月、当時のソ連領にドイツが軍事侵攻を開始した後、対独戦争に巻き込まれたソ連領内の子どもが戦闘地帯の村で遊撃部隊に協力する姿を描く短編小説である。本文は、ある日戦闘によって破壊され廃墟となった村に、ドイツ軍の小隊がやって来たところから始まる。ドイツ軍の兵士たちは村はずれの白樺の林の中で鳥の鳴き声を真似て一人で遊ぶ少年を見つけ、道案内を命じた。少年はこれに従う振りをしてドイツ兵の前に立ち、ナイチンゲールやホトトギスの鳴き声を真似ながら森の中へと分け入って進んだ。実はこの少年は敵兵を味方の潜伏地

へ誘導する役目を果たしており、少年が発する鳥の鳴きまねは、森の中に潜伏する味方の遊撃部隊にドイツ兵の人数と装備を知らせる手段として使われていた。少年に誘導されてソ連の遊撃兵の陣内に引き込まれたドイツ兵は、潜んでいた遊撃兵から攻撃を受けて全滅した。

「ナイチンゲールの歌声」は、「王二小」と同様に無邪気な子どもを装って敵兵を自陣に誘導する少年を主人公とする。「ナイチンゲールの歌声」の学習目標にも「王二小」と同じく「少年の機智と勇気を理解すること」が掲げられている。<sup>39</sup> 旧ソ連の対独戦争を主題とした「ナイチンゲールの歌声」を用い「王二小」と同じ内容を再度提示することで、不当な軍事侵略に対し機智と勇気を以て敵兵に抵抗する子どもの姿には、国家地域を越えた普遍性が与えられようとしている。

第14課「小さな英雄雨来」は、前章で述べた『語文』一年級下冊第25課「楽しい祝日」の作者管樺による同名の小説『小さな英雄雨来』を原作とする。<sup>40</sup> 「小さな英雄雨来」は建国以来長く小学校の語文教科書の教材に選ばれてきた。現在使用されている『語文』四年級下冊第四単元の中では、第14課「小さな英雄雨来」は前出の第13課「ナイチンゲールの歌声」から抗日戦争期の中国に舞台を戻し、八路軍の兵士に協力し日本軍に立ち向かう少年雨来の姿を描くという教材となっているが、同課の学習目的は、「王二小」「ナイチンゲールの歌声」と並んで、勇気と機智を以て侵略者と戦う愛国的人物を理解することにある。

「小さな英雄雨来」の主人公は、「王二小」と同様、抗日戦争の主要な舞台の一つとなった晋察冀辺区で八路軍の活動家を手助けする十二歳の少年であるが、「王二小」と異なり「小さな英雄雨来」の本文中には物語の背景が明確に記されている。まず本文の冒頭には物語の舞台は晋察冀辺区の中の小さな村であると明記され、雨来少年の父親及び仲間の男性は地区の工作人員を務め組織的に活動していること、村内には日本軍の襲来に備え逃走路を確保されていること等が記されている。さらに「王二小」の本文には敵兵が日本兵であることは示されず、挿絵に描かれている日の丸の旗が日本軍の存在を示唆していたのに対し、「小さな英雄雨来」の本文には、敵兵は日本兵を指す「日

本鬼子」という語を用いて明記されている。

本文の中で、雨来の住む村は日本軍の掃討作戦にさらされながら、雨来の父親をはじめ村民たちは密かに抵抗運動を続けていると説明される。その中で雨来の父が組織の任務のために家を留守にしている時、同村の活動家が日本軍に追われて雨来の家に逃げ込んできた。雨来はこの活動家を匿い、自分も日本兵に追われるものの機転を利かせて危険を切り抜ける。「小さな英雄雨来」は、戦争の中では子どもも大人と同様に自分の判断によって行動しなければならないこと、敵の攻撃から自国を防衛するためには子どもも抵抗運動に協力しなければならないことを示す。このように「王二小」で示された、侵略戦争の中で味方の軍事行動に協力し、勇気と機智を兼ね備えた子どもの人物像は、『語文』四年級下冊第四単元第13課「ナイチンゲールの歌声」へ、そしてさらに第14課「小さな英雄雨来」へと繰り返し提示されている。

第13課並びに第14課が第二次世界大戦の中で敵の軍事侵略に抵抗する旧ソ連と中国の子どもの姿を描くのに対し、同単元の後半の二つの教材では時間を一九九〇年代に移し、現代の国際情勢が生み出した戦争によって過酷な体験を強いられる子どもが主人公となる。

第15課「ある中国の子どもの願い」<sup>41</sup> は、戦争によって父親を失った現代中国の子どもの手紙が原作となっている。本文には手紙が書かれたのは一九九六年とあり、原作者の名前は雷利と注記されている。<sup>42</sup> 原作者雷利の父親雷潤民（一九五九～一九九四）は一九九一年の湾岸戦争後、国連平和維持軍の軍事監視官としてイラク・クウェートの国境地域に駐留していたが、一九九四年五月に戦死した。二年後の一九九六年、当時北京第二中学に在学中だった雷利は、理不尽な戦争に反対し戦争に巻き込まれる子どもたちの救済をうたえて、ガリ国連事務総長（当時）に手紙を書いた。本文によれば、雷利が父親の死亡通知を受け取った際、ガリ国連事務総長は雷潤民に哀悼の意を表し、その功績を讃えたと言う。雷利は父親が国連の平和維持活動に従事したことを誇りに思うものの、父を失った悲しみは消えないことを記した後、以下のように述べる。

今、わたしたち中国の子どもは平和な環境で暮らしていますが、世界は平和とは言えません。多くの場所で戦争の砲煙が満ち、罪惡の銃弾が「平和の花」を脅かしています。

わたしたちは、我が父のように平和を熱愛し、勇敢に自分の生命を以て平和を守らなければなりません。<sup>43</sup>

ここには、戦争に対する観点が次のように示されている。第一に、現在中国は戦争の時代を過去のものとし、子どもたちは平和な社会を享受していることが示される。これは、『語文』一年級下冊第六単元が「先人の犠牲に感謝し、現在の平和を享受する」という立場を示していることと一致する。第二に現在中国の子どもは平和を享受する環境にあるが、世界の平和を脅かす不当な戦争に反対し、平和を実現するために生命を賭けるという決意が示されている。前述の第13課「ナイチンゲールの歌声」と第14課「小さな英雄雨来」はともに、危険を冒して侵略者に立ち向かう少年を主人公とするが、同様に第15課「ある中国の子どもの願い」もまた平和のために危険を恐れず能動的に行動する子どもの姿勢を描いている。『教師教学用书』は、「ある中国の子どもの願い」を教材として載録した理由を「世界の平和を守るために犠牲となった英雄たちに思いを馳せると同時に、世界に視野を広げ、平和を希求する信念を打ち立てるべく児童を指導することにある」と説明する。<sup>44</sup> さらに同課の学習に際しては「授業に先立ち、新聞、テレビ等を通じて国内外の動向や国際情勢を理解し、とりわけ政情が不安で軍事紛争が続く地域に関心を持つこと、平和維持部隊の使命と活動状況を理解すること」<sup>45</sup> が提案されている。これらの課題が提示される背景には、一九九一年に勃発した湾岸戦争が存在する。湾岸戦争の発端は、一九九〇年八月のイラク軍によるクウェート侵攻にあり、同年のイラクの武力行使に対し国連安全保障理事会は再三にわたって抗議し、イラク軍の撤退を要求したが不調に終わった。そこで翌一九九一年に米国を中心とする多国籍軍がイラクを空爆、その結果イラクがクウェートから撤退したことで停戦にこぎつけた。しかし停戦後も、国連は軍事活動の監視という形でイラクに強く関与したため、湾岸戦争はさら



に多くの国家に影響をもたらし、この教材の原作者雷利の父親もまた、イラクに対する国連軍事監視団の活動に携わる中で死亡した。その後もイラク情勢は安定せず、二〇〇三年三月には米軍を中心とする有志連合がイラクの武装解除実現を理由にイラクに派兵し、イラク戦争が勃発した。

これらの一連の動きに眼をやると、「ある中国の子どもの願い」が掲げる、「政情が不安で軍事紛争が続く地域に関心を持ち、平和維持部隊の使命と活動状況を理解する」<sup>46</sup> という学習目標は、一九九〇年代以降対立が激化した中東情勢と、この件に対して米国が軍事関与を強めた結果引き起こされた湾岸戦争に関心を持つこと、戦争の被害者を救済するために国連平和維持活動に参加する中国の立場を理解することを強く意識するものと考えられる。従って「ある中国の子どもの願い」は、戦争被害者の救済を目的とする国連平和維持活動の意義を強調しつつ、子どもを戦争の犠牲者とするにとどまらず、道義なき侵略戦争に抗議する能動的な存在と位置付ける教材だと言える。

第16課「みんなに春が来るように」は、作家高洪波（1951～）の作品を原作とする。高洪波は内蒙古自治区に生まれ、一九六九年に人民解放軍に入隊後、陸軍四十師砲団所属の野戦軍砲兵として経験を積んだ。高洪波は軍隊生活のかたわら、一九七一年から詩文作品を発表しはじめ、一九七八年には軍人生活に終止符を打って『文芸報』新聞部主任に転じた。その後は創作活動をつづけながら『中国作家』『詩刊』等の雑誌編集に携わった。高洪波は一九八〇年代から児童詩の創作にも関心を示し、主な作品には児童詩集『象の裁判官』（大象法官）、『二十一世紀への祈り』（为二十一世纪祈祷）、散文集『柳桃花』（柳桃花）等があげられる。『語文』の中では、「みんなに春が来るように」の他に、五年級下冊第9課「児童詩二首」所収の教材「わたしは想う」（我想）が載録されている。

「みんなに春が来るように」は全五節からなる児童詩で、第一節から第四節で本来美しい自然を湛える海、砂漠、空、草原が戦場と化し、子どもたちの平和な生活が奪われている現実を描写した後に、第五節は戦火にさらされる子どものために平和で静かな教室を取り戻し、ともに春を迎えようという言葉で締めくくられている。本文には特定の戦争を示唆する語句は使われて



ないが、「みんなに春が来るように」を執筆した動機として、作者の高洪波は「湾岸戦争の時代にバグダッドやイスラエルの小学生が恐怖に怯え防毒マスクをつけて授業を受ける姿、その後のNATO軍のユーゴスラビア空爆、さらには米軍によるイラク攻撃を伝えるテレビ映像に衝撃を受けた」と述べている。<sup>47</sup> 高洪波はその後、二〇〇〇年十月に中国作家協会代表団の一員としてヨルダン、シリア、レバノン等アラブ諸国を歴訪し、中東で長引く戦争の状況を目の当たりにした。地中海に臨む美しい海浜都市ベイルートが長年の戦争によって廃墟と化した状況には、軍隊経験を有する彼自身でさえ震撼を覚えたとも述べている。<sup>48</sup>

中国が過去の戦争の時代を克服し、子どもたちは平和を享受する環境にあることは、前出の「ある中国の子どもの願い」を通じて示されている。これにつづく「みんなに春が来るように」もまた、戦争体験を持たない中国の子どもが戦争に抗議し、平和維持の感情を掻き立て、現代の課題として戦争と平和について考えることを学習の目的とする。<sup>49</sup> よって同課の学習に際しては事前に戦争に関する近年の資料を収集させ、関連する映像資料の視聴を奨励しているが、これには湾岸戦争以降の中東情勢と、中国が関わる国連の平和維持活動の事例について学ぶことを念頭に置くものと考ええる。<sup>50</sup>

「戦争と子ども」という主題に対して、どのような教材を載録するか。『語文』四年級下冊第四単元では、教材を載録する際に多様な選択肢が有る中で、上述のように第二次世界大戦における先人の犠牲と、今日の課題という二つの観点から教材を載録していることが確認できた。

## おわりに

本稿では、現在中国で使用されている義務教育語文課程の教科書『語文』の中で、「戦争と子ども」という主題がどのように説明されているのか、これらの教材を学ぶことによって如何なる世界観、人生観、価値観を育むことになるのかという課題について、考察を試みた。

義務教育語文課程の教科書に戦争を主題とする教材が取り上げられる理由は二つある。

第一に中国の義務教育語文課程が掲げる「世界観、人生観、価値観の形成」という目標を達成する上で、人間の生命とこれを脅かす要素の一つとして戦争に対する考察を避けて通ることはできない。人間の生命に焦点を当てた考察は、身体、思想、文化、科学等多様な角度から展開できるが、個人の生命のみならず社会全体が危機的状況に直面する事例として「戦争と人間」は大きな主題となるからである。第二に本稿が考察の対象とした『語文』には、中国の文学、思想、伝統文化、歴史地理等について理解を深めるための教材がさまざまな分野から載録されているが、その中にはアヘン戦争以降、中華人民共和国成立を経て現在に至るまで、中国の戦争体験を主題とする教材が多様な文脈の中で取り上げられている。これらの戦争の歴史は、中国社会に深刻な影響を与えたと同時に、中国共産党の正統性を説く上で重要な意味を持つからである。これら二つの理由から『語文』においては、小学一年後期という義務教育の初期段階に「王二小」という教材が載録され、自国に対する侵略戦争には子どもも生命を賭して抵抗すべきこと、先人の犠牲の上に現在の中国が成り立っていることが示される。「王二小」と同種の教材はその後も繰り返し取り上げられて、不当な侵略戦争に全面的に抵抗するという価値観の形成が促されている。

『語文』が説明しようとするのは「過去」だけではない。本稿の考察の結果、『語文』においては、中国は現在既に自国が当事者となる対外戦争の時代を脱したという立場から、一九九〇年代以降国際社会を揺るがした湾岸戦争以降今日に至る中東情勢に関心を抱き、国連の平和維持活動を通じてこれに関わる中国の立場を説明する教材が載録されていることが確認できた。

以上のように、本稿では語文課程で目標とされる世界観、人生観、価値観の形成に対し、「戦争と子ども」を主題とする教材が如何なる意味を持つのか考察を試みた。だが、『語文』の中で戦争に関わる教材は「戦争と子ども」を主題とするものだけではない。『語文』において戦争というテーマが如何に取り上げられているか、さらに視野を広げて考察を進めたい。また、中国の義務教育語文課程が目標とする「正しい世界観、人生観、価値観の形成」の詳細を理解するには、戦争に止まらず人間の生命に影響を及ぼす多様な事象

を視野に入れなければならない。今後、稿を改めてこの課題を考察したい。

## 注

- <sup>1</sup> 中国で現在使用されている語文科目の教科書に関し、筆者が進めて来た研究は以下の通り。「中国の小学『語文』の教科書 愛国のための儀礼を支えるキーワード」平成23(2011)年日本学術振興会 科学研究費基盤研究(s) 富谷至代表『東アジアにおける儀礼と刑罰』、「中国の義務教育課程国語教科書の特色について—人民教育出版社刊『語文』六年級下冊を中心に—」『名古屋外国語大学外国語学部紀要』第48号 平成27(2015)年、「中国の小学校国語教科書が描く自然・人間・社会—人民教育出版社『義務教育課程標準実験教科書 語文』四年級下冊を中心に—」『名古屋外国語大学外国語学部紀要』第49号 平成27(2015)年、「『語文』が示す勉学の方法と教師像—中国人民教育出版社『義務教育課程標準実験教科書 語文』七年級上冊を中心に—」『名古屋外国語大学外国語学部紀要』第52号 平成29(2017)年。
- <sup>2</sup> 中華人民共和国教育部「義務教育語文課程標準(2011年版)」第一部分前言第2段。
- <sup>3</sup> 課程教育研究所・小学語文課程教材研究開発中心編著義務教育課程標準実験教科書『語文』一～九年級、各学年上下冊で全18冊(人民教育出版社発行 2001年に一年級第一版発行、以下年次ごとに順次発行)、同『語文 教師教学用書』一～九年級、各学年上下冊で全18冊(人民教育出版社発行 2001年一年級第一版発行、以下年次ごとに順次発行)。
- <sup>4</sup> 義務教育課程標準実験教科書『語文 一年級下冊 教師教学用書』(人民教育出版社2001年以下、『語文 一年級下冊 教師教学用書』)第六組135頁。
- <sup>5</sup> 同上。
- <sup>6</sup> 『語文』一年級下冊第22課「吃水不忘挖井人」97頁。
- <sup>7</sup> 『語文 一年級下冊 教師教学用書』(第22課「吃水不忘挖井人」一、教材簡説141-142頁。
- <sup>8</sup> 『語文』一年級下冊第23課「王二小」99-100頁。
- <sup>9</sup> 晋察冀辺区は抗日戦争中、八路軍の軍事拠点となった地域の名称である。一九三七年七月の盧溝橋事件以後日中戦争がはじまると、日本軍は中国全土に軍事行動を拡大した。これに対して同年十一月毛沢東は八路軍総司令朱徳の指揮下に、現在の山西省、河北省、遼寧省、内モンゴル自治区が含まれる地域に抗日運動の根拠地を設け、翌一九三八年一月に晋察冀辺区政府が正式に成立した。しかしその後もこの地域の支配をめぐる八路軍は日本軍との間に激しい戦闘を繰り返した。一九四五年八月の日本敗戦によって同区は中国共産党の勢力域内に入り、国共内戦を経て一九四八年に晋察冀辺区は廃止された。
- <sup>10</sup> 歌曲『歌唱二小放牛郎』は一九四二年方冰作詞、劫夫作曲により発表された。これに基づいて建国後、作家の陳模は実録短編小説『少年英雄王二小』を発表した。同作品は抗日戦争時代の子どもを主人公とする児童文学作品として、長く読み継がれている。本稿では抗日小英雄児童文学経典読本シリーズ『少年英雄王二小』(済南出版社 二〇一四年)を参照した。映画作品では一九九二年到北京電影制片廠、安徽電影制片廠が張馳監督、熊郁・肖尹憲による脚本編集、丁儼、沈丹萍等主演の『二小放牛郎』(別名『少年英雄王二小』)を発表、さらに二〇〇三年にも沈東監督、陳模による脚本編集、崔林・李夢

男の主演で上海美術電影制片廠が『少年英雄』を発表している。

- <sup>11</sup> 本文にある「児童団」は、正式には「抗日児童団」と呼ばれ、抗日戦争中の一九三七年から一九四五年にかけて、各地に組織された抗日根拠地で、救国活動のために14歳以下位の児童を対象に結成された。一九三八年十月に開かれた西北青年救国会第二次代表大会では「抗日児童団組織章程」が採択されている。後の中国少年先鋒隊は児童団を前身とする。「抗日根据地的少年儿童団」(『文史天地』2015年第7期)には、抗日戦争時期の児童団を記録した写真が集められている。
- <sup>12</sup> 『語文 一年級下冊 教師教学用書』第23課「王二小」一、教材簡説146-147頁。
- <sup>13</sup> 『語文 一年級下冊 教師教学用書』第23課「王二小」二、学習目標147頁。
- <sup>14</sup> 『小兵张嘎』は作家徐光耀の小説を原作とするテレビドラマ。2004年中国中央電視台から放映された。抗日戦争期、河北省保定市を舞台に八路軍の活躍とこれに関わる少年の姿を描く。
- <sup>15</sup> 『語文 一年級下冊 教師教学用書』第23課「王二小」三、学習建議③実践活動149-150頁。
- <sup>16</sup> 『語文 一年級下冊 教師教学用書』第23課「王二小」五、資料袋151頁。
- <sup>17</sup> 涿源県における八路軍と日本軍の戦闘については、田中仁「日中戦争前期における華北農村と中国共産党—河北省涿源県の『800日』」『中国社会主义文化の研究』(石川禎浩編、京都大学人文科学研究所2010年)参照。同論文の中で「王二小」についても言及されている。
- <sup>18</sup> 涿源県人民政府网站「王二小原型在涿源：抗日英雄故事家喻户晓」(<http://www.laiyuan.gov.cn/index.do?id=4822&templet=content&cid=22>) (2017年3月4日閲覧)
- <sup>19</sup> 保定市人民政府网站「王二小原型在涿源」<http://www.bd.gov.cn/content-173-21302.html> (2017年3月4日閲覧)
- <sup>20</sup> 『燕趙晚報』2013年10月14日「秋访平山滚龙沟 怀念英雄王二小」 [http://yzwb.sjzdaily.com.cn/html/2013-10/14/content\\_104986.ht](http://yzwb.sjzdaily.com.cn/html/2013-10/14/content_104986.ht)、<http://news.sina.com.cn/o/2013-10-14/060028425112.shtml> (いずれも2017年3月4日閲覧)
- <sup>21</sup> 注12、13に同じ。
- <sup>22</sup> 新丁「方冰和《歌唱二小放牛郎》」(『江淮文史』2009年第3期)。
- <sup>23</sup> 華東方「方冰与“王二小”」(『党史纵横』2005年第9期)。
- <sup>24</sup> 注22に同じ。
- <sup>25</sup> 同上。
- <sup>26</sup> 注20に同じ。
- <sup>27</sup> 中国文明網「抗日英雄王二小」([http://www.wenming.cn/wmzh\\_pd/ws/shgc/201407/t20140707\\_2047207.shtml](http://www.wenming.cn/wmzh_pd/ws/shgc/201407/t20140707_2047207.shtml)) 2017年3月4日閲覧)
- <sup>28</sup> 同上。
- <sup>29</sup> 『語文』一年級下冊第24課「画家乡」。
- <sup>30</sup> 『語文 一年級下冊 教師教学用書』第24課「画家乡」一、教材簡説152頁。
- <sup>31</sup> 『語文』一年級下冊第25課「快乐的节日」107-109頁。
- <sup>32</sup> 「快乐的节日」は管桦作詞、李群作曲による児童のための歌曲で、一九五〇年代以降中国広く親しまれた。初めて楽譜が発表されたのは『歌曲』一九五四年第四期とされる。

- <sup>33</sup> 前掲「快乐的节日」107頁。
- <sup>34</sup> 『語文』四年級下冊第13課「夜莺的歌声」。
- <sup>35</sup> 『語文』四年級下冊第14課「小英雄雨来」。
- <sup>36</sup> 『語文』四年級下冊第15課「一个中国孩子的呼声」。
- <sup>37</sup> 『語文』四年級下冊第16課「和我们一样享受春天」。
- <sup>38</sup> 『語文 四年級下冊 教師教学用書』第四組70頁。
- <sup>39</sup> 『語文 四年級下冊 教師教学用書』第13課「夜莺的歌声」二、教学目標74頁。
- <sup>40</sup> 前述のように管樺は1948年『晋察冀日報』（『人民日報』の前身）副刊に処女作『雨来は生きている』（雨来没有死）を発表した。この先品は建国後の1955年に改編され中編小説『小英雄雨来』として発表された。
- <sup>41</sup> 『語文』四年級下冊第15課「一个中国孩子的呼声」70-72頁。
- <sup>42</sup> 『語文』四年級下冊第15課「一个中国孩子的呼声」70頁。
- <sup>43</sup> 『語文』四年級下冊第15課「一个中国孩子的呼声」71頁。
- <sup>44</sup> 『語文 四年級下冊 教師教学用書』第15課「一个中国孩子的呼声」一、教材解説87頁。
- <sup>45</sup> 『語文 四年級下冊 教師教学用書』第15課「一个中国孩子的呼声」三、教学建議89頁。
- <sup>46</sup> 同上。
- <sup>47</sup> 高洪波「孩子与战争-谈《和我们一样享受春天》的创作」『小学語文教学』2005年第5期68-70頁参照。
- <sup>48</sup> 同上。
- <sup>49</sup> 『語文 四年級下冊 教師教学用書』第16課「和我们一样享受春天」一、教材解説96頁。
- <sup>50</sup> 『語文 四年級下冊 教師教学用書』第16課「和我们一样享受春天」三、教学建議98頁。